

花貫川第一発電所第3号水路橋



(表紙写真提供：高萩市)

茨城県多賀郡高萩町（現高萩市）に現存する「花貫川第一発電所」は、多賀電気(株)によって大正7年（1918）に茨城県北部の二級河川「花貫川」に開設された流れ込み式発電所で、現在も稼働中です。

「花貫川第一発電所第3号水路橋」は、発電用水を上流の取水堰から水圧鉄管に導入する全延長2.2kmの水路のうち、渓谷を渡河する区間に建設された橋梁です。両側の山に向かって2つのアーチを作る姿が「めがね」のように見えることから、通称「めがね橋」の愛称で親しまれています。

橋は長さ77.4m、幅2.1m、地上からの高さ22.4m、沢の河床から約15mの石積み橋脚に鉄筋コンクリート製の2連のアーチが架けられ、上部の水路には、毎秒1.1m³の発電用水が流れています。

また、スパンドレル部(上桁と下桁に挟まれた部分)には、コンクリート製の直材が使用されています。これは、アーチの導水橋として、我が国における初期のコンクリート造形であり、平成11年(1999)には、国指定の登録有形文化財(建造物)、平成24年(2012)には、「土木学会推奨土木遺産」に指定されています。

花貫川沿の地域は、茨城県立自然公園に指定されており、季節ごとに美しい風景が楽しめます。その中でも「花貫川第一発電所第3号水路橋」は、人気の観光スポットの1つです。

新型コロナウイルス感染症終息後、ご家族・ご友人とともに、さわやかな風を感じながら、緑と水の風景を体感しに、訪れてみてはいかがでしょうか。

